

1 瀬戸町の歴史と文化

歴史と文化の薫る瀬戸のまち。その足跡をたどってみよう！

●中世の瓦工場「万富東大寺瓦窯跡」(国指定史跡)

源平の争いによって焼かれた東大寺。その再建の瓦が、鎌倉時代の初め(約800年前)に造られています。

軒丸瓦の直径は約20センチ。瓦には「東大寺大仏殿」の字句が見られます。これまでに、14基の瓦窯跡や管理所、工房などの建物跡が確認され、約30~40万枚の瓦が製造されたと推測されています。



東大寺軒丸瓦

●大昔のお城「大廻小廻山城跡」(国指定史跡)

総延長約3.2kmの土塁(土壁)で囲まれた城で、一の木戸などの水門跡が確認されています。瀬戸内海を展望でき、付近には備前国府や古代山陽道がある要所に築かれています。

このような形態の大規模な城を古代朝鮮式山城といい、一説では、畿内政権によって7世紀頃に築城されたと考えられています。



一の木戸(大廻小廻山城跡)

●福岡合戦と「松田元成・大村盛恒墓所」(県指定史跡)

松田元成は、金川城(岡山市北区御津金川)の城主で、文明16年(1484)の福岡城(瀬戸内市長船町)をめぐる攻防戦である福岡合戦に勝利を得ましたが、天王原(瀬戸内市長船町)の戦いで敗れ、塩納・山の池まで退き自害しました。元成の家老・大村盛恒も後を追って切腹しました。その地には、元成の子・元勝が建てたといわれる墓塔があります。



松田元成(向かって右)・大村盛恒(向かって左)墓所

●「宗堂の桜」(県指定天然記念物)と「雲哲院日鏡」

宗堂の桜は、60枚の花びらがあり、小ぶりながら豪華に見えます。突然変異種であるため、他の土地に移植しても花の色が変化し特性を示さないといわれており、今でも地区の人達によって大切に育てられています。この桜には、殿様に毒殺された雲哲院日鏡という僧を悲しんで、内側20枚の花びらが開ききらなくなったという伝説が残されています。



宗堂の桜

●「白桃」と「大久保重五郎」

大久保重五郎は、塩納・山の池で明治32年(1899)に上海桃の実生から優秀な新品種「白水桃(白桃)」を発見しました。その後、昭和2年(1927)に新品種「大久保桃」を作り出し普及奨励が図られて、岡山県が桃の産地として名声を得る基盤となりました。生誕の地(塩納・山の池)には顕彰する碑が建てられています。

●「中津山願興寺」の天井絵図

願興寺は、報恩大師の建てた備前四十八か寺の一つと伝えられています。享和2年(1802)建立された本堂の天井には、文政3年(1820)に描かれた絵図があります。外陣の絵図の龍が夜な夜な水を飲みに出るので、それを封ずるために天井板をずらして打ちかえたという伝説が残っています。

●郷土の誇る軍人・政治家「宇垣一成」

宇垣一成は、明治元年(1868)に瀬戸町大内に生まれ、大正から昭和の初期にかけて活躍した軍人・政治家です。陸軍大臣の時に実施した大規模軍縮の影響で、軍部の反発により首相になれませんでした。昭和28年(1953)の参議院議員選挙では、全国最高得票で当選し政界に復帰しました。県内各地に残る忠魂碑などから、その功績を知ることができます。



天井絵図の龍(願興寺)

(注)地図に記載の宇垣一成生家は、現在見学できません。



大久保重五郎翁顕彰碑